

YAMANASHI

まげん

第5回 山梨県老人保健施設大会開催

居宅サービスの一部が1月から変更

「通所リハビリ」部会発足

第7回 老健ソフトバレーボール大会開催

施設訪問記 ケアホーム花菱

施設紹介 NAC湯村・甲府南ライフケアセンター





島津県老健協会長

今年も、平成13年10月17日（水）に、石和町にある「寿の家」大木記念ホールにおいて、山梨県老人保健施設大会が盛大に開催されました。当日は、またまた雨の降る肌寒い日でしたが、会場には、県内全老健施設から200名を超える会員が参集し、講演と各施設からの発表を真剣に聞いていました。

まず、開会式では、島津県老健協会長のあいさつと、相川県福祉保健部長の来賓祝辞があり、続いて、全国老人保健施設協会理事である介護老人保健施設伸寿苑施設長の浜村明德様から「身体拘束とリスクマネジメント」と題した講演が行われ、現在我々にとって最も課題となっている身体拘束について興味あるお話を聞くことができました。

休憩のあと、演題発表に入りましたが、今回は、別表のとおり「ADLの改善・事故防止」の他3セッションに分かれて熱心な発表と質疑・討議が行われました。

大会終了後各出席者から提出されたアンケートを集計した結果、「印象に残った発表」として、*車椅子乗車体験を通して*命をたくした家族の思い*ケアをする人、される人*車椅子からのずり落ちに対する一考案*パラエティクでリフレッシュ、が挙げられ、「施設の資質向上にどのように役立てたいか」では、*個別レクなど参考になった*実際に体験することにより入所者の気持ち、苦痛がよく分かる。相手の立場、状況を考えて対応したい*その人に合ったケアをしていく大切さを感じた等多くの意見が寄せられました。

また、「この研修会の有意義だと思った点」では、*他の施設の方とのふれあいが出来た*各施設でどんな取り組みをしているのか知ることが出来た*自分の施設での改善点がわかり、これからの業務に取り入れていきたい等、この研修会で得たものへの積極的な取り組み姿勢が伺えました。

さらには、*発表時の灯りがとても暗い*発表は1施設で1つで良い*身体拘束とリスクマネジメントのスライドで使用された資料を頂けたらもう少しゆっくりと話を聞くことが出来たと思う等、今後の大会運営に役立つ貴重な意見も多数ありました。

介護保険が導入されて1年6ヶ月以上が経過した今日、被保険者が自由に介護サービスを選択できる状況下で、施設側としてどのようにそれに対応していかなければならないか、今後ともこのような機会を通して勉強し、お互いに切磋琢磨していく必要性を痛感した大会でした。



浜村全老健協理事



相川県福祉保健部長

演題の一覧

セクション1 ADLの改善・事故防止

座長 峡北シルバーケアホーム 植松弥生

重度の痴呆でも...

～すべては「おはよう」の一言から始まった～

白樺荘 介護 廣瀬廣子

私もワンピースが着たい!

～笑顔が戻るまでの取り組み～

しおかわ福寿の里 介護 小池花実

老人保健施設のリハビリテーションに期待するもの

～利用者御家族と職員のリハビリに対するイメージのアンケートより～

ケアホーム花菱 理学療法士 木藤博志

車椅子乗車体験を通して ～利用者疑似体験～

甲府かわせみ苑 看護 桜井雅英、介護 芦沢英雄
車椅子からのずり落ちに対する一考案

サンビューかじかざわ 介護 小林理恵

インシデントレポートの分析から

～老健での事故対策を考える～

ひばり苑 介護 山岸 修

セクション2 レクリエーション

座長 つる 斉藤直子

家族と楽しむ納涼会を企画して

～昨年の反省からの取り組み～

ケアセンターいちかわ 介護 村松安浩

当施設のレクリエーションの取り組みについて

～週間レクスケジュール表を作成して～

峡南ケアホームいいとみ 介護 栗原綾子

バラエティレクでリフレッシュ

～個別レクで新たな発見～

峡西老人保健センター 介護 河野八重子

音楽療法を導入しての入所者の変化

～打楽器を使った即興合奏への関わりをふりかえって～

峡北シルバーケアホーム 介護 浅川婦美子

遠足に行こう! ～心と身体のリフレッシュ～

受け入れ先の高齢者介護への理解と協力

ももくら 介護 赤沢麻佳

生きることの 本当の尊さを知る 愛との出会い

～人間としての それぞれの使命～

山梨ライフケアホーム 介護 牧野正道

セクション3 全身管理・勉強会

座長 山梨ライフケアホーム 嶋田澄夫

高齢者のSpO₂測定とその数値に関する検討

つる 看護 山崎秀子

口腔ケアへの取り組み

～さあ!歯をみがきましょう～

ナーシングプラザ三珠 介護 野口ゆり子

介護サイドからの風邪対策

いちのみやケアセンター 介護 小池由美

水分摂取と排泄管理の一試案

～アナログ的グラフによる水分摂取・排泄管理の重要性の認識を図る～

甲府南ライフケアセンター 介護 丸山恵史

勉強会発足に対する当施設職員の意識

～事前アンケート調査を実施して～

峡北シルバーケアホーム 理学療法士 長田 悟

ケアする人、される人

～利用者理解の疑似体験～

峡西老人保健センター 介護 山村昇子

セクション4 家族との共存

座長 峡南ケアホームいいとみ 長坂ゆう子

え?...同意?!

～本人と家族と共存したケアプランづくりを目指して～

つる 介護 寺田貴俊

老老介護のお手伝い

～家での生活が長続きするために～

しおかわ福寿の里 介護 白倉 文江

介護保険制度施行前後の家庭復帰と在宅支援

甲州ケア・ホーム 支援相談員 実川美千代

命をたくした家族の想い

甲府相川ケアセンター 支援相談員 山岡拓道

家族との絆 ～家族との絆を大切にしたいケアを!～

ノイエス 介護 白倉豊彦

地域社会の中で介護老人保健施設が果たす役割とは

～千塚小学校の福祉施設訪問活動を通して～

NAC湯村 介護 斉藤 洋

居宅サービスの一部が 1月から変わります

介護保険制度スタートから1年半が経過し、より分かりやすい制度とするための改正が平成14年1月から実施されます。主な改正点である居宅サービス支給限度額の本化に伴う説明会がありましたのでお知らせします。

主な変更点

1. 訪問通所サービスと短期入所サービスの区分がありましたが、この区分を一つに統合し、併せて支給限度額管理の期間が月単位（暦月）となります。

（現 行）

区 分	内 容
訪 問 通 所 サ ー ビ ス	通所リハビリテーション、通所介護、訪問介護、 訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、 福祉用具貸与
短 期 入 所 サ ー ビ ス	短期入所療養介護、短期入所生活介護

（施行後）

上記のサービスが一つの区分となります。

2. 支給限度額管理の方法は、サービスの単位数による方法に統一され、その支給限度額は、現行の訪問通所サービスの支給限度額となります。

（現 行） 例：要介護1の場合

訪問通所サービスを月に16,580単位の範囲で組み合わせて利用し、短期入所サービスを六ヶ月間に14日まで利用可能。

（施行後）

訪問通所サービス・短期入所サービス併せて月に16,580単位の範囲で組み合わせての利用となります。

3. 現行実施されている短期入所サービスの次期拡大措置、振替措置は平成13年12月をもって廃止されます。
4. 短期入所サービスの連続利用は30日間までが保険給付の対象となります。



詳しくは最寄りの介護老人保健施設にお尋ね下さい。

「通所リハビリ」部会発足

部会長 武井 澄江



山梨県老人保健施設協議会の具体的な活動を担っているのは、「委員会」と「部会」です。委員会は、研修・広報・福利の三分野において、協議会全体のレベル向上のために活動しています。また、部会は、看護・介護・支援相談員・リハビリ・栄養士・事務長というそれぞれの職種に応じてその質の向上を目指して活動しています。

介護保険法の登場に伴い、居宅介護サービスが重視されるようになり、特に通所リハビリテーションの重要性が高まる中で、平成13年度から「通所リハビリ部会」が新たに発足しました。

平成13年7月18日、協議会事務局のご支援を得て、部会設立手続きと研修会を行いました。研修の内容は、甲州ケア・ホームの施設見学を通所リハビリを中心として見せていただくとともに、各施設の居宅サービス提供計画書を持ち寄ってケアプランをテーマとして活発な情報交換を行いました。

第二回は、平成13年10月31日、甲府相川ケアセンターを会場として、施設の見学をさせていただき、リハビリとしてのレクリエーションのあり方について研修をしました。それぞれの施設で、年間・月間・週間の行事予定表を持ち寄って、グループに分かれて情報交換や討議をしました。

通所リハビリの実態は、職員の数、利用者の数、あるいは利用者の要介護度の違いなど、それぞれの施設において一律に考えることは出来ない現状もつかむことができました。そして、どの施設も利用者やその家族と緊密な連携を維持しながらも、個別の対応までは行き届かないなど、共通の悩みも浮き彫りにされました。

通所リハビリに関する課題は、まだまだ山積しています。今年は、全国デイケア協議会の大会に参加することが出来、全国レベルでも通所リハビリが抱える問題に積極的に取り組まれていることを知り心強く感ずるとともに、通所リハビリの発展のために一層努力したいと思っています。



通所リハビリテーション部会長 武井 澄江
通所リハビリテーション副部会長 清水 愛子

老健ソフトバレーボール大会開催

第7回



『笑顔と汗が光って・・・』

去る9月30日、甲府総合市民会館・山の都アリーナにおいて、『第7回山梨県老人保健施設協議会・職員交流ソフトバレーボール大会』が開催されました。コート3面を使っただけで、全21施設の参加で行われましたが、選手・応援団の数多い参加により、広い会場も、ところ狭し。駆け回る選手の表情には清々しい汗と、意気揚々とした笑顔があふれ出ておりました。日頃、息つく暇も惜しみ、施設内で介護に従事している職員。疲労やストレスなど、微塵も感じさせない大会当日の表情から、日々続く日常業務への活力となったに違いありません。

会場へ響き渡る滑舌の良い選手宣誓が、大会始まりにふさわしく・・・開始！！

選手の顔ぶれは、男女年齢問わず、息の合ったチームワークで目を見張るものがありました。この日のために、忙しい業務にも関わらず、時間を割いて練習を重ねてきた成果が十分発揮されておりました。

『応援にも熱がはいって・・・』

各施設、応援席からの掲げられた応援旗、横断幕は精

根込めて作られたもの。太鼓などの楽器を利用し、声援にあわせて応援を盛り上げる・・・さまざまな活気ある応援には、選手同様、熱がはいりました。熱気あふれる試合を繰り広げる選手だけでなく、コートサイドにおいても、応援合戦！！

試合終幕に近づき、決勝戦ともなると、応援団も声が枯れはじめてきました。まばたきをも忘れて一球一球見つめる瞳の先には、勝利を願う応援団一人一人の気持ち、声にならない声で伝わってきておりました。選手・応援団が一丸となる瞬間、それはまさに、日常の業務を共にする仲間との、息合う様子を目の当たりにする瞬間でもありました。

『優勝！！ 峡南ケアホームいいとみ』

結果は、優勝『峡南ケアホームいいとみ』準優勝『峡西老人保健センター』どちらのチームへも拍手をおくりします。惜しくも敗退してしまった他チームにおいても、結果云々ではなく、素晴らしい試合を繰り広げ、接戦を目にすることができました。

失敗あって、当たり前！！声を掛け合い、励まし合い、施設内の仲間や他施設職員との交流は存分に持つことができたこと、実感しております。

本大会の目的、同じ悩みや苦勞を持つ仲間との触れ合い交流も、大盛況の中、閉会の言葉をもって幕を閉じました。

年に一度、恒例行事として行われている本大会も、一年一年開催数を重ね、更に励みある行事となることを望んでおります。最後に、大会運営に向けてご尽力いただきました、県老健・島津会長、福利委員会の皆様、お疲れさまでした。最後までのお応援、ありがとうございました。



成績結果

優勝	峡南ケアホームいいとみ
準優勝	峡西老人保健センター
第3位	甲府相川ケアセンター いちのみやケアセンター
応援大賞	あさひホーム いちのみやケアセンター



に会う度に、元気な笑顔で挨拶されました。相手にとって大変気分がいいものです。そして、勤務時間外に、若い職員達数名がホールの片隅で和気藹々とフルートの練習をしていたのが、アットホームで働きやすい雰囲気であることを思わせました。

施設の特徴といえば

設備構造については特に力を入れており、長野オリンピック建設を手掛けた設計事務所が設計をしています。

明るさを保つため3階まで吹抜けを通し、デザインは木目を基調とし施設全体がやわらかく和みやすいものとなっております。又、光熱費については、灯油ヒートポンプ式を採用し光熱



費を軽減させ運営を助けております。

又、痴呆性老人の生活の場を充実したものとさせるため、痴呆対応型共同生活介護施設(グループホーム甲西)を有し、痴呆性老人の安定した生活を支援しています。



今回は、平成13年8月に開所したケアホーム花菱を訪問してきました。ケアホーム花菱が立地するのは、甲西町のはずれにある田島の閑静な田園の中にあります。周りに高い建物はなく、遠方に山々が見られる絶好な場所に位置しています。小田切理事長、小田切理事および長田事務長にお話を伺いました。

開設のきっかけは何ですか

甲西町の介護保険制度を踏まえた政策要請に賛同して、老人福祉の枠を広げるため、お年寄りの活性化を図るために、平成10年に特別養護老人ホーム花菱荘を開設。その隣接地に介護老人保健施設・痴呆対応型共同生活介護施設の開設に至った次第であります。又、今後の動向として障害者施設についても検討しています。

運営の理念は何ですか

「ケアは心から」を理念に、職員の資質に重点を置き、ゆとりある人間性を表面に出せるよう配慮をしています。そのために、職員の働く環境を重視し、特に職員への労的負担の軽減を図ることを考慮しています。

そういった取り巻く環境からか、職員は明るく、職員



施設の概要

入所定員 100人(個室4室 4人部屋24室)

グループホーム定員 8人(個室8室)

通所定員 20名

協力病院 武川病院

所在地 〒400-0402 中巨摩郡甲西町田島1105番地

電話番号 055-280-8700 F A X 055-280-8701

設置主体 医療法人 千歳会

● 施 ● 設 ● 紹 ● 介 ●

NAC湯村

NAC湯村は甲府市北西部、湯村温泉郷内に平成9年4月に開設されました。武田信玄公の時代からすでにその名を知られていた湯村温泉は、良質で豊富な湯量を誇っています。その奥まった地に立つ当施設は、閑静な住宅街に囲まれ、交通の便も良く、自然環境にも恵まれており、周囲は老舗旅館・ホテルが連なり常にあたたかな風情が漂っています。



入所定員95名（短期入所含む）、通常リハビリ定員50名の他、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターを併設し『在宅支援と地域ふれあい』を運営ベースに日々サービス提供を行っております。特に在宅支援サービスの代表ともいえる通所リハビリは、平成13年4月より定員を30名から50名に拡大し、更なる地域の高齢者にサービスが提供できるようになりました。

当施設の最大の特徴は、2本の源泉から湧出する天然の温泉を利用した入浴設備です。婦人病・肩こり・冷え性・腰痛・筋肉痛・キリ傷・スリ傷などに効能がある単純食塩源泉で、大浴場・家庭的な檜風呂・機械浴槽、夏季には露天風呂も開放され、温泉入浴をリハビリの一環として利用者には大変喜ばれています。

利用者にはレクリエーションの充実を図り、行事委員会で企画した様々な内容を実行しており、運動会・納涼会・クリスマス会・バスハイク・焼き芋会・アニマルセラピーなどの年間行事の他、誕生会・音楽療法・車いす体操・歌唱指導などの月間行事の提供を行っています。また地域ふれあいの概念から数多くの団体・個人ボランティア様や近隣の幼稚園・小中学校・高等学校との交流を積極的に行っています。

利用者の皆様、人とふれあひながら社会の一員として生活できるよう、また日常生活をいつも明るく楽しく過ごしていただけるために、NAC湯村は『目配り気配り思いやり』をモットーに『地域ふれあい施設』を目指しております。

甲府南ライフケアセンター



甲府南ライフケアセンターは平成8年4月老人保健施設としてスタートしました。甲府バイパスと甲府精進湖線が立地交差する北側に建つ四階建ての都市型介護老人保健施設です。

交通の便が良く、利用者の八割以上が甲府市の方々です。そのためご家族の面会も非常に

多く社会との距離を心理的にも遠ざけることなく生活することができています。

通所リハビリ、居宅介護支援事業、在宅介護支援センターをも併設しており老人介護に関する全ての相談に応じております。さらには利用者のニーズに合ったケアプランを作成し、創意工夫をこらし日夜看護・介護に努力しております。又リハビリテーション・レクリエーションにも力を入れ、毎日の生活に張りを持たせ、生き甲斐づくりを目標に自立への道を開いております。

地域の皆さんと共に利用者・ご家族・ボランティアの方々・職員が力をあわせ取り組んでいます。納涼祭は見事なものです。「太鼓の演奏」「盆踊り」「模擬店」「花火大会」など大盛況で毎年利用者の皆さんやご家族が待ち望んでいる行事の一つです。その他、ひな祭り・七夕祭り・文化祭など季節に合った行事中心に十二回以上行っています。

快適な生活を送って頂くため郷土食・行事食などの食事及び入浴等への配慮は勿論のこと、オゾン発生装置を施設全体に設置し臭気対策に力を入れております。

「笑顔と思いやりで築く質の高いケアをめざす」を年間目標に掲げ一日も早く利用者が自立され社会に復帰されることを願って職員一同日々頑張っております。

シリーズ さくひん



クリスマス・ツリー

日々新たな気分で一日を迎えるには、好きな趣味を生かすこと。そして施設の利用者たちは新しい趣味に取り組みうと歌や絵に挑戦しています。

6人のグループによる、クリスマスツリーの作品です。和紙にマカロニをあしらひ、見事なツリーを制作しました。このツリーの下でのパーティーが楽しみです。

ケアホーム花菱

編集後記

山梨県老人保健施設協議会の広報委員長として、県老健協広報誌「ろうけん」第8号、第9号、そうしてお手許の第10号を、各広報委員の皆様及び(株)少国民社のご協力により発刊することが出来ました。

広報委員長として、「ろうけん」を通じ、介護老人保健施設の役割が広く皆さんに伝えられるよう、編集、発行に意を用いてきたつもりでしたが、如何だったでしょうか。

さらには、「人生80年時代」という本格的な長寿社会の到来にあたって、健康でいきいきとした生活が送れるように、高齢者を中心に、県民の皆様が一堂に会し、ふれあいや交流を通して、活力に満ちた「地域づくり」を推進する手掛かりとするために開催された「いきいき山梨ねんりんピック」にも、各広報委員の皆様とともに、2年続けて参加いたしました。

福祉は今、顧客満足度の高いサービスを目指す時代へと転換しております。

これらを踏まえ、介護老人保健施設の原点であります「家庭復帰」介護に真摯に取り組む、よりよい福祉社会の実現に向かって参りたいと思っている今日この頃であります。

広報委員長 武川 修

山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行 山梨県老人保健施設協議会
広報委員会

事務局 〒406-0032
山梨県東八代郡石和町四日市場2031
甲州ケア・ホーム内
TEL.055-263-0242
FAX.055-263-2250

制作 株式会社 少国民社
甲府市丸の内二丁目7-24
TEL.055-226-2125